

# 第1回 中央ジャンクション 三鷹地区検討会

平成20年8月24日(日)  
法政大学中学高等学校

# 本日の情報提供内容

1. 環境影響について

2. 環境に関する課題への対応

3. 将来交通量

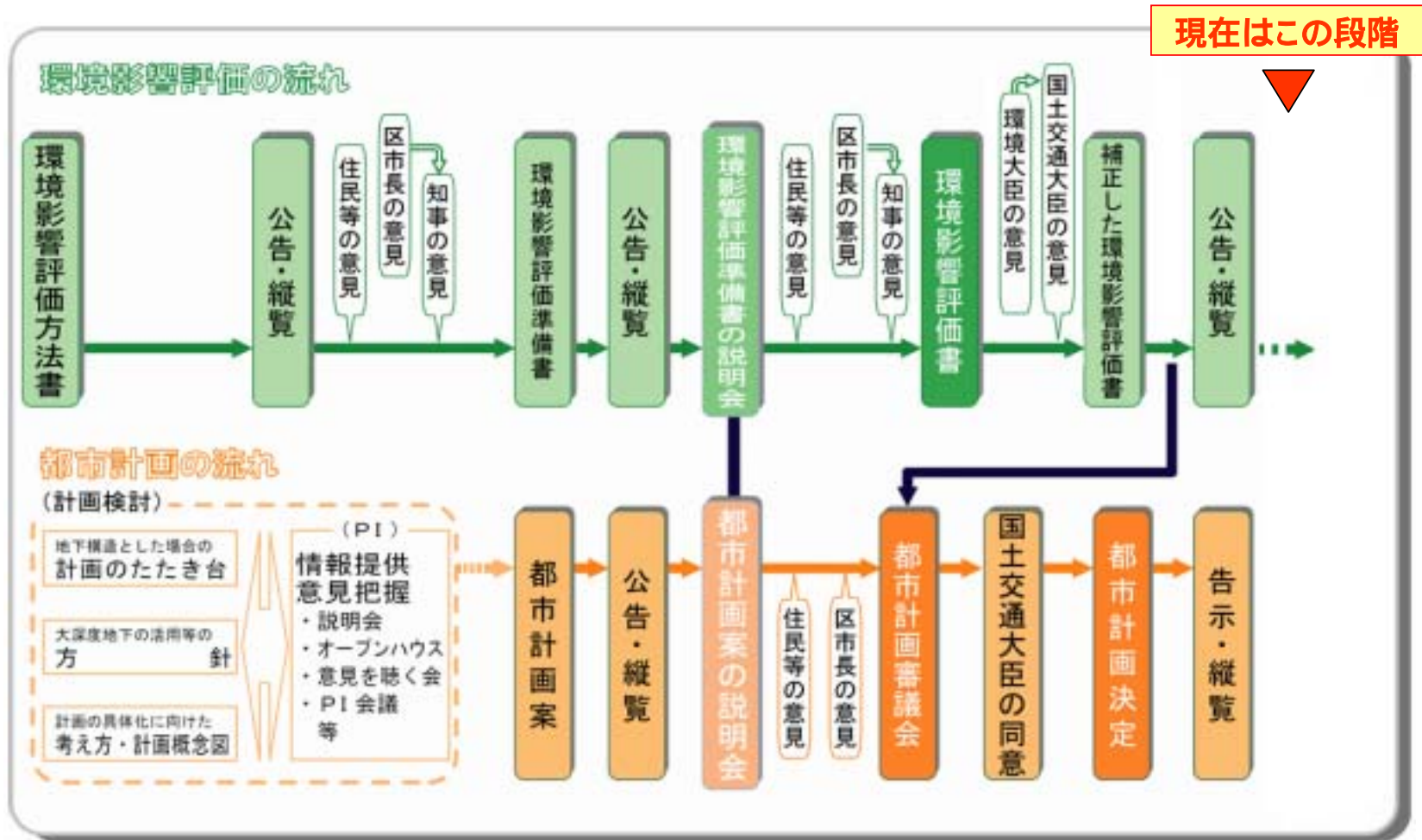
# 1. 環境影響について

## 参照用資料



「都市高速道路外郭環状線  
(世田谷区宇奈根～練馬区大泉町間)  
都市計画案及び環境影響評価準備書  
のあらまし(H18.6)」参照

# 環境影響評価法に基づく手続きの実施



# 環境影響の予測・評価

## 沿線地域の環境に配慮し、トンネル構造を採用

- 地上の影響範囲を極力減少
- 車からの騒音、振動等の影響を最小限に抑制
- 車からの排気ガスをトンネル内及び換気所でできる限り処理

## 環境への影響について、予測評価を実施

外環を整備することによる環境への影響について、現地調査の結果をもとに、予測評価を行い、必要な環境保全対策の検討を実施

### 予測評価項目

- 大気質
- 騒音
- 振動
- 低周波音
- 水循環
- 地形及び地質
- 地盤沈下
- 日照障害
- 電波障害
- 動物
- 植物(希少種、群落)
- 植物(緑の量)
- 生態系
- 景観(眺望景観)
- 景観(地域景観)
- 史跡・文化財
- 人と自然とのふれあいの活動の場
- 廃棄物等

# 環境影響の予測・評価

## 予測・評価項目

予測・評価項目		大気	騒音	振動	低周波	水質	地形及び地質	地盤沈下	日照障害	電波障害	動物	植物(重要な種及び群落)	植物(緑の量)	生態系	景観(主要な眺望景観)	景観(市街地の地域景観)	史跡・文化財	人と自然との触れ合いの活動の場	廃棄物等	
完成後	道路の存在	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	自動車の走行	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	換気所の存在又は供用	○	○	○	○	○	—	○	○	○	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—
工事中	○	○	○	—	○	○	○	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	—	—	○

○: 選定した項目

環境影響評価では、**環境要素18項目**について予測及び評価を実施。  
 予測の結果、**環境への影響は、必要な環境保全措置を実施することなどにより、事業者の実行可能な範囲内で環境影響をできるだけ回避又は低減している**と評価。

# 計画交通量

計画交通量は「平成11年度道路交通センサス(全国道路交通情勢調査)」を基に、供用開始時点を想定した平成32年及び幹線交通ネットワークの整備が概ね完了した状態を想定した平成42年について推計しました。



凡例  
 平成32年  
 平成42年  
 単位:万台/日

	平成32年 (万台/日)	平成42年 (万台/日)
本線	7.2 ~ 9.8	9.7 ~ 10.9
東八道路IC	2.8	3.3
青梅街道IC	1.4	1.2
目白通りIC	0.6	0.6



# 大気質についての予測結果(自動車の走行)

## 予測位置図

(中央JCT・東八道路IC)



凡例	
-	予測位置

## 自動車走行に係る大気質 <二酸化窒素 NO<sub>2</sub>>

予測結果(日平均値の年間98%値) 単位:ppm

予測地域	平成42年
中央JCT・東八道路IC	0.040 ~ 0.048
評価の指標	0.06

## 自動車走行に係る大気質 <浮遊粒子状物質 SPM>

予測結果(日平均値の年間2%除外値) 単位:mg/m<sup>3</sup>

予測地域	平成42年
中央JCT・東八道路IC	0.055 ~ 0.057
評価の指標	0.10

# 大気質についての予測結果(換気所の供用)

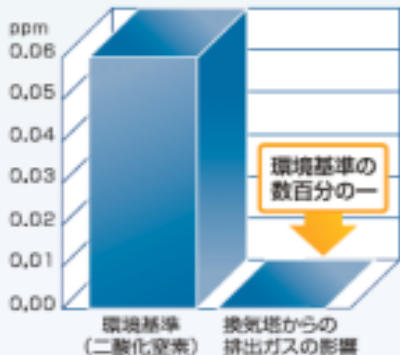
換気所から排出される二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)の地表付近への影響は現在の濃度と比べても非常に小さいものです。  
**環境基準値と比べても数百分の1以下**となります。

**二酸化窒素(NO<sub>2</sub>) 予測濃度分布図**  
(中央JCT換気所, 道路寄与分, H42年平均値)  
寄与濃度の年平均値の最大値 0.0001ppm

最大着地濃度出現位置	
方位	距離(m)
北	約810

記号	名称
●	排出源位置

単位: ppm



**現況濃度**  
0.021ppm(年平均値)  
(H19深大寺南測定局)



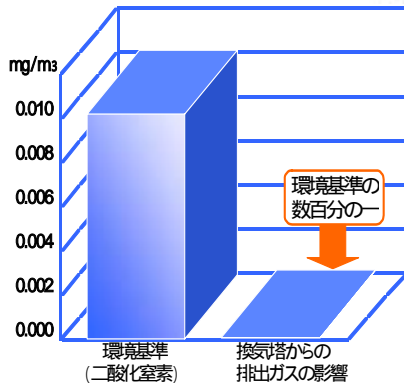
# 大気質についての予測結果(換気所の供用)

換気所から排出される浮遊状粒子物質 (SPM) の地表付近への影響は現在の濃度と比べても非常に小さいものです。  
**環境基準値と比べても数百分の1以下** となります。

**浮遊粒子状物質(SPM) 予測濃度分布図**  
(中央JCT換気所, 道路寄与分, H42年平均値)  
寄与濃度の年平均値の最大値 0.00001mg/m<sup>3</sup>

最大着地濃度出現位置		記号	名称
方位	距離(m)	●	排出源位置
北	約810		

単位: ppm



**現況濃度**  
0.023mg/m<sup>3</sup> (年平均値)  
(H19深大寺南測定局)





# 騒音・振動についての予測結果(自動車の走行)

## 予測位置図

(中央JCT・東八道路IC)



凡例	
-	予測位置

## 自動車走行に係る騒音

予測結果(夜間、L Aeq)

単位: dB

予測地域	平成42年
中央JCT・東八道路IC	47 ~ 60
評価の指標	65

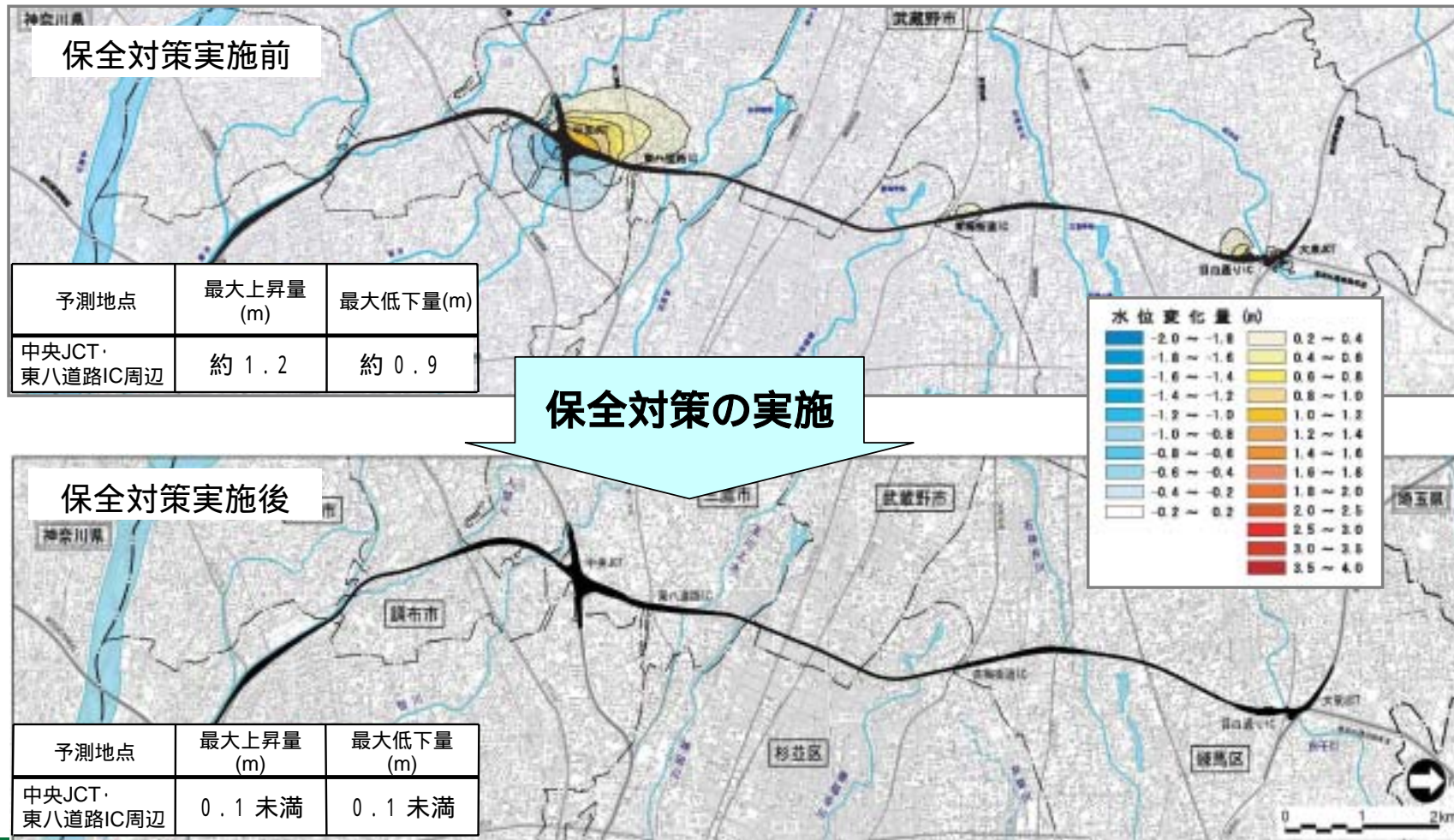
## 自動車走行に係る振動

予測結果(夜間、L10)

単位: dB

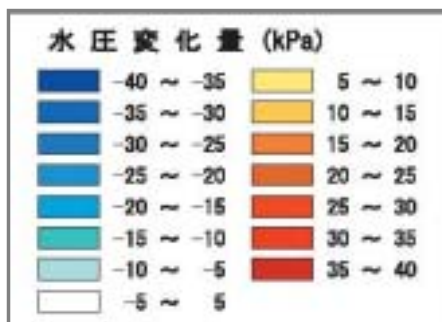
予測地域	平成42年
中央JCT・東八道路IC	30 ~ 51
評価の指標	55

# 浅層地下水の予測結果



# 深層地下水の予測結果

深層地下水の水圧低下量は、最大で約1～7kPaとなり影響は小さいと考えられます。



水圧低下量1～7キロパスカル  
1キロパスカルの水圧変化 = 約10cmの水位変化